

第146回 BA エグゼクティブサロン概要（10/21）

テーマ：「地域における高齢者の在宅療養支援」

講師：高瀬 義昌（たかせ よしまさ）

医療法人社団至高会たかせクリニック 理事長

日本老年精神医学会専門医

日本プライマリ・ケア連合学会認定医

卓話概要：

超高齢社会を迎え、人口のボリュームゾーンである「団塊の世代」すべてが75歳以上となる2025年に向けて「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。その中で在宅医療は重要な役割を担っており、「地域医療構想」による病床機能の再編成も進められており、約130万人が在宅医療の整備目標とされています。

同時に、認知症の最大のリスクは高齢化であり、日本人の多くが自身もしくは家族の認知症と向き合わなければならない時代が到来しています。各産業界もその点について目を向け、認知症顧客対策を講じ始めるなど医療・介護業界にとどまらない社会課題となりつつありますが、有史以来ここまで高い割合の認知症者を抱える国はなく、先例がない中で試行錯誤しながら解決を模索しなければならないというのが我が国の現状といえます。

本講演では、私の日々の活動をご紹介しますとともに、地域で求められる高齢者の支援や今後の展望について解説します。

略歴：

1956年生まれ。信州大学医学部卒業。東京医科大学大学院修了、医学博士。昭和大学客員教授。麻酔科、小児科を経て、以来、包括的医療・日本風の家庭医学・家族療法を模索し、2004年東京都大田区に在宅を中心とした「たかせクリニック」を開業する。

現在、在宅医療における高齢者医療、認知症のスペシャリストとして厚生労働省の高齢者医薬品適正使用事業や東京都・大田区の地域包括ケア、介護関連事業の委員も数多く務め、在宅医療の発展に日々邁進している。



(以上)